

BOOKS

金川克子・早川和生(監訳) コミュニティ・アズ・パートナー 地域看護学の理論と実際

北岡英子

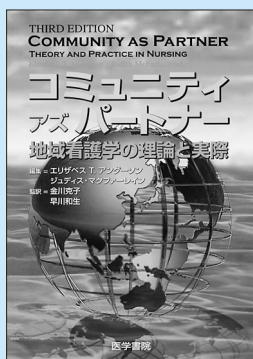
神奈川県立衛生短期大学専攻科

「保健師とは？」の問いに答える実践的指南書

「保健師さんはすごく忙しそうで
ゆっくりお話もできなかった」「学
校で習ったことと実際の活動が違
う!」「保健師の専門って何だろ
う?」などなど保健所実習後の学生
の感想はさまざまである。

私は現在、1年課程の保健師・養
護教諭教育に携わっている。1年間
で2つの資格を得るためには、学生
も教員も過密なカリキュラムをこな
すことを強いられる。前期は座学を
中心に「理論」を叩き込まれ、後期
は実習で「実際」を学び、その間、
事例をまとめた報告会や研究的な
整理をしなければならない。

冒頭の学生の感想にもあらわれた
とおり、近年、多くの自治体で機構
改革が行われ、保健師の活動の場や
役割が大きく変化している。職域の
拡大という点においては喜ばしいこ
とだが、状況の変化に混乱している
現場も少なくないようである。しか
しこのようなときこそ「保健師と
は?」「保健師活動とは?」の問いを
反芻しつつ、活動の対象となる地域
をどのようにとらえ、どう取り組ん
でいく必要があるか、原点に立ち返
って再確認することが必要ではない
だろうか。



●B5判 288 ページ

定価：本体 3,800 円＋税
医学書院 (Tel.03-3817-5657)

本書の初版は“Community as
Client”として出版されたが、原著者
は地域看護活動の対象となるコミュニ
ティを「クライアント」としたとらえ
方から「パートナー(仲間)」とした考
え方に発展させ、本書(第3版)の発行
に至っている。構成は3部15章から
なり、第Ⅰ部「理論的基礎」では地域を
とらえるために必要な情報や理論があ
げられている。第Ⅱ部「パートナーと
しての地域のプロセス」では、具体例
をあげて地域の分析から評価まで一連
の過程が示されている。そして第Ⅲ部
「健康促進の方法」では、対象との健康
なパートナーシップを促進するための

具体例があげられている。さらに各
章のはじめに「学習目標」、最後に
「まとめ」が明記され、ところどころ
にある「注意事項」で演習課題や強
調点、注意点の確認ができるよう配
慮されている。

監訳者は序文で「行政や地域を基
盤にした保健師活動(そこで生活し
ている人々全員を視野においた活
動)を効果的に進めていくためには
まず地域(コミュニティ)全体のアセ
スメントと分析、問題の明確化や地
域看護診断、地域の保健(看護)プ
ログラムの計画・実施・評価等の手順
や体系化などが必要である」と述べ
ている。まさに本書はそのための教
科書であり、学生だけでなく現場で
の指南書にもなると思われる。

そして各章の内容をさらに詳しく
学ぶためには章末の文献、推薦図書、
インターネット情報源などを活用し
て深めることができる。うれしいこ
とに邦訳のある文献も紹介されてい
る。本書は単に「読んで学ぶ」だけ
でなく、実践に「活用する」ことで何
十倍にも生きてくると思われる。今
後、原著者がさらに考えを発展させ、
次なる改訂版が発行されることを大
いに期待している。